

第2学年B・D組 国語科単元指導案

令和2年9月10日(木)1校時

2 - B ・ D 名

指導教諭 金指先生 ㊟

指導者 仲條瑠莞 ㊟

1. 単元名 ネットとリアルと私たち—哲学対話—

(教材名:「生命情報・社会情報・機械情報」『現代文B 改訂版 上巻』大修館書店)

2. 単元設定の理由

対象とする生徒は高校2年生であり、これまで実用的・論理的文章にも触れ、それについて自分の考えを持つ経験を重ねてきている。また、小学校前後から既にインターネットが普及し、LINEやTwitter、InstagramといったSNSが身の回りに溢れており、生徒にとって「情報」「情報社会」は大人以上に当たり前のものとして存在していることが考えられる。加えて、新型コロナウイルスの影響で急速にオンライン化が進み、これまで以上に「リアル」と「ネット」の境界線があいまいになりつつある。

本教材は、「情報」について考えるだけでなく、「情報から」人間や現代社会の在り方についてまで考察を深めようとしている。また、「情報」というものが生徒にとって身近である一方で、改めて「情報とはどういうものか」について考える機会は日常生活では少ないだろう。本教材は、本文の中で筆者が投げかけている現代社会の現状や問題、その解決について「自分事」として理解した上で、それに対して生徒が批判的に読み解いたり、主体的に自分の考えを持つことができる点に価値がある。本文だけでなく、メディアや言語、哲学など幅広い分野と関連させて自分自身や社会についてまで考えさせたい。

今回は、生徒が「情報」について考えることを通して「自己の在り方・生き方」を探ることを目的とし、単元計画を設定する。教科書を読み解く中で、似たテーマの他の文章・資料に触れたり、生徒同士で意見を交わし合う中で、自分の考えを持つ。その上でそれを自分の生き方や在り方に活かすことができるような指導を行う。

3. 単元の学習指導案との対応(現行学習指導要領)

【現代文B】

A 話すこと・聞くこと

ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方を工夫して話し合うこと。

C 読むこと

ア 文章の構成、展開、要旨を的確にとらえ、その論理性を評価すること。

ウ 文章を批評し、考えを深め発展させることに関する指導事項

ウ 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。

オ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てること。

4. 単元の目標

- (1) 本文中の語句の意味やその内容について理解することができる。(知識・理解)
- (2) 本文を読んで筆者の主張を踏まえて自分の考えを持ち、新たな考えに触れ自分の考えをさらに深めることができる。(読むこと)
- (3) 自ら進んで文章を読み、自己の在り方・社会との関わり方について考えを深めようとしている。(関心・意欲・態度)

5. 単元の評価規準

	知識・理解	読むこと・話すこと・聞くこと	関心・意欲・態度
単元の評価規準	(i) 本文中の語句の意味やその内容について理解することができる。	(ii-1) 本文を読んで自分の考えを持つことができる。 (ii-2) 対話を通して新たな考えに触れ、自分の考えを深めることができる。 (ii-3) 話し合いを進める中で、相手の意見や立場を尊重したり、表現を工夫したりすることができる。	(iii-1) 自ら進んで文章を読み、自分自身と社会について考えを深めている。 (iii-2) 現代の社会と今の自分について関連させて考えようとしている。
具体の評価規準	・ワークシート ・発言 ・行動観察	・ワークシート ・発言 ・行動観察	・ワークシート ・行動観察 ・発言

5. 単元指導計画 (全3時間)

次	時	ねらいと学習内容	●留意点 ○評価
1	1	【ねらい】 ・自分たちを取り囲む「情報」とそこ	●軽く目を通してから授業に臨むよう指示する。

		<p>から見えるネットとリアルの姿について、筆者の論理を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネット社会における個人と社会の問題について考える。 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しを持つ。 ・3つの「情報」とは何か考える。 ・筆者の主張する現代社会の問題について理解する。 ・「身体性遊離」と「身体的共感」とコミュニティについて自分の考えを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本文中の3つの「情報」やその内容について理解することができている。 ○自分にとって身近な「情報」を具体的に考えた上で、本文を読もうとしている。(行動観察、ワークシート) ○本文の語句の意味や内容を理解している。 ○本文を読んで、現代社会や自分の身の回りと照らし合わせて考えることができている。(付箋、ワークシート) ○自ら進んで文章を読もうとしている。(行動観察、ワークシート)
2		<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文の内容を批判的に捉え、資料をもとに個人や社会の在り方について考える。 ・哲学対話に向けて「自分の問い」を持ち、広げる。 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会のなかでのネットとリアルの関係性、そこにいる人々の在り方とその問題点を把握し、自分の考えを持つ。 ・思考ツール(マインドマップ)を活用し、「ネットとリアルと私たち」という視点から自分で問いを立て、深める。 ・哲学対話について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語句の意味やその内容について理解することができている。(ワークシート、発言) ○本文や資料を読んで自分の考えを持つことができる。 ○自分や社会と照らし合わせて考えることができている。(ワークシート、発言) ○現在の自分自身と社会について考えを深めようとしている。(行動観察、ワークシート)
2	3	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ネットとリアルと私たち」というテーマについて「哲学対話」を通して考えを深め合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●哲学対話は結論や答えを出すことを目的とはしないことに留意する。 ○新たな考えに触れ、自分の考えを

	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・哲学対話を行い、多様な意見に触れる。 ・自分の体験に即して、自分の言葉で意見を交わし合う。 ・自分の生き方、社会の在り方についてまで考えを広げる。 	<p>深めることができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本文を読んで、現代の社会と今の自分について関連させて考えようとしている。 (ワークシート、発言、行動観察) ○ネットとリアルと私たちについて、考えを深めようとしている。 (ワークシート、行動観察)
--	---	---

第2学年B・D組 国語科単元指導指導案

令和2年9月9.10日(水、木)1校時

2 - D 名

指導教諭 金指先生 ㊞

指導者 仲條瑠莞 ㊞

1. 本時の指導 (1/3 時間)

(1) 本時の目標

「ネットとリアル」という視点から、筆者の論理と社会の抱える問題について捉える。

(2) 本時の展開

	○学習活動	◎手だて ●指導上の留意点 ★評価 (方法)
導入 10	1. 学習の見通しを持つ。 2. 生徒にとって身近な「情報」について考える。	●最後に哲学対話を行うことを意識させる。 ◎パワーポイント、メンチメンター ●生徒の発言を大切にする。 ★自分にとって身近な「情報」を具体的に考えた上で、本文を読もうとしている。(行動観察、ワークシート)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「ネットとリアル」という視点から、個人や社会が抱える問題を捉えよう！ </div>		
展開 35	3. 本文の論理を確認する。 (1) 回し読みを行う。 T: こういうメディアはこれまで存在したことがない、「これまでのメディア」ってどんなものがあるか	●人類の歴史を簡単にまとめ、順を追っていくことで「情報」への理解を深める。 ◎形式段落ごとに回し読みを行う。 ●双方向性のあるネットと、一方向性のマスメディアの違いに触れる。

<p>な？</p> <p>T:「共同体的な組織」、「機能的な組織」とはなんだろう？具体例は？</p> <p>T:「ネットと資本が徐々に世界を均等にならしつつある」とはどういうこと？</p> <p>(2) 筆者の「3つの情報」について整理する。→「情報」の定義</p> <p>(3)「二十一世紀情報社会」とそこで生きる私たちを取り囲む問題について考える。</p> <p>T:「われわれは情報処理単位ではない」とはどういうこと？</p> <p>T:「近代社会」の対義語は？ それぞれの「自由・平等」とは？</p> <p>T:「近代社会」とは？</p> <p>T:「コミュニティ全体への身体的共感」と「私(自己)のリアル」との関係は？</p> <p>T:「自ら進んで情報処理単位と化していく」とは？</p> <p>T:筆者は二十一世紀情報社会で何を問題視している？</p> <p>(4) ソクラテスの予見⑳～㉓</p> <p>T:「極端な自由から、最も大きく、最も激しい隷属があらわれてくる」とは？</p> <p>T:「社会的メガマシンに組み込まれた反作用」とは？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●2009年とiPhoneの登場について触れる。 ●プレイヤーについて図を用いて整理する。(対比構造) ●具体例を挙げて身近なものとして捉えるよう留意する。 ●難解な語句については適宜解説、もしくは生徒に投げかける。 ◎付箋とワークシートを用いて図示する ●コンピュータと人間の違いから考える。 ●筆者の言う「生きる」ということと関連させて考える。 →ソクラテスやプラトン、アリストテレス ●⑲段落は、読んで考えを持たせる。→次時につなげる ★本文を読んで、現代社会や自分の身の回りと照らし合わせて考えることができている。(付箋、ワークシート) ●「極端な自由」と「激しい隷属」を指す語句を本文中から探す。 ●図を活用して、何が何を具体的に現わしているのか整理する。 ●ここではあくまで本文に即して読解を進める。
---	---

	<p>T:「大衆消費の快楽に刹那的にのめりこむのはなぜだろう？」</p> <p>T:「身体性遊離」と同じことを言っている言葉は？</p> <p>(5) 本文における筆者の主張（問題解決のためにどうして行くべきか）、ネットとリアルの関係性について考える。</p> <p>T:「孤独感」はなぜ生まれる？</p> <p>T:「暴君の独裁」とは？</p> <p>T「身体性の回復、コミュニティの見直し」は、具体的に何のこと？</p>	<p>★本文中の語句の意味やその内容について理解することができる。（ワークシート、発言）</p> <p>★本文を読んで自分の考えを持つことができる。</p> <p>★自分や社会と照らし合わせて考えることができる。（ワークシート、発言）</p>
まとめ 5	<p>4. まとめ</p> <p>(1) 本時の振り返り</p> <p>(2) 次時について</p>	<p>●振り返り、疑問点、分かったことをまとめる</p> <p>★自ら進んで文章を読もうとしている。（ワークシート、行動観察）</p>

第2学年B・D組 国語科単元指導指導案

令和2年度9月10.16日

2 - D 名

指導教諭 金指先生 ㊞

指導者 仲條瑠莞 ㊞

1. 本時の指導 (2/3時間)

(1) 本時の目標

「ネットとリアル」という視点から、本文について批判的に読み解き、私たちと社会の在り方について考える。

(2) 本時の展開

	○学習活動	◎手だて ●指導上の留意点 ★評価 (方法)
導	1. 前時の復習を行う。	●パワーポイント、ワークシートを活用する。

<p>入 10</p>	<p>・前時を踏まえ、個人や社会の問題について整理する。</p>	<p>◎前回のワークシートを参照する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「ネットとリアル」という視点から、私たちと社会の在り方について考えよう。</p> </div>
<p>展 開 35</p>	<p>2. 本文を振り返る。 (1) 本文に対して批判的立場に立ってみる。(10分) T:身体的共感なしに生きていけないのは本当? T:大衆消費の快樂にのめり込むのはいけないこと? T: ネット上でのやりとりって偽物?</p> <p>3. 資料を読んで自分の考えを持つ。(10分) T: 本文だけでなく、他の資料も読んで考えを深めてみよう。空欄やメモ欄を積極的に活用して、思ったことや疑問、自分の実体験を描き込みながら読んでみよう。</p> <p>4. 本文と資料、自分たちの経験を踏まえて、哲学対話で扱う「ネットとリアルと私たち」について問いを立てる。(15分) T: 本文や資料を読んで考えたことを踏まえて、哲学対話で扱う問いについて、みんなで考えてみよう。</p>	<p>●生徒にとって身近な例を挙げる。 ●本文における「ネットとリアル」に関連する部分をピックアップして、まず生徒に投げかける。(生徒とのやりとり) ●「ネットとリアル」、そしてそのあいだにいる「私たち」という次時に繋がるテーマを強調しておく。 ●自分の実体験や、実生活での印象、感情を基に考えさせる。</p> <p>●平野啓一郎『私とは何か』、鷺田清一『じぶん・この不思議な存在』の二冊を資料として用意し、配布する。 ●資料編に自分の考えや疑問、体験をメモする欄をつけておく。</p> <p>●軽く哲学対話について説明する。 ●問いの立て方を『考えるとはどういうことか 0歳から100歳までの哲学入門』を参考に説明し、それに沿って問いを立てる。 ●いくつか問いの例を用意して提示する。 例： ・ネット上での友達とリアルの友達って何が違う？ ・ネットとリアル境界線ってどこにあるの？ ・SNSのコミュニケーションと直接会うコミュニケーションの何が違うの？ ・ネットとリアル境界があいまいになる、って具体的にどういうこと？</p>

まとめ	5. まとめ (1) 本時の振り返り (2) 次時について ・哲学対話 →ソクラテスから繋げる	●ネットとリアルの関係性について触れ、次時に繋げる。 ●振り返り、疑問点、分かったことをまとめる ★自ら進んで文章を読もうとしている。 (ワークシート、行動観察)
-----	---	--

第2学年B・D組 国語科単元指導指導案

令和2年度9月17日(木)

2 - D 名

指導教諭 金指先生 ㊟

指導者 仲條瑠莞 ㊟

1. 本時の指導 (3/3 時間)

(1) 本時の目標

「ネットとリアルと私たち」について、哲学対話を通して考えを深める。

(2) 本時の展開

	○学習活動	◎手だて ●指導上の留意点 ★評価 (方法)
導入 5分	<p>1. 学習の見通しを持つ。</p> <p>2. 注意点と定義づけを説明する。</p> <p>T：話し合いでは以下のことに気をつけよう。……</p> <p>T：筆者の言う身体的共感について、もう一度定義しておこう。</p>	<p>◎前時で作成した問いを振り返る</p> <p>●哲学対話を授業用にアレンジし、生徒同士が多様な意見を柔軟に交流するように留意する。</p> <p>●筆者の定義する「<u>身体的共感＝自分がより大きな組織の一部のように感じられる感覚</u>」を確認しておく。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">「ネットとリアルと私たち」について考えを深めよう</div>	
展開 35分	<p>3. 班ごとに考えを深める。</p> <p>T：ネットで身体的共感は得られる？ (20分)</p> <p>S：得られる。</p> <p>S：得られない。</p>	<p>●最初にそれぞれの意見を手を挙げて示させる。</p> <p>●班ごとに意見を統一するのではなく、それぞれの考え方を共有し、ホワイトボードに整理する。この時、理由を明確にしておく。</p>

<p>S：半々。</p> <p>4. ネットとリアルについて考える (10分)</p> <p>T：ネットとリアルの共通点と相違点って？</p> <p>S：どっちも身体的共感は得られるんじゃない？</p> <p>S：得られるものは全く一緒ではないかも…</p> <p>S：何が違う？</p> <p>Tリアルでしか得られないものってある？</p> <p>S：逆にネットだからこそできることがあるかもしれない。</p> <p>5. 「私たち」はネットとリアルとどう接していくべき？ (10分)</p> <p>T：これまで考えてきたことを踏まえて、私たちはどう接していくべきだろう？ (何に気を付けるべき？)</p> <p>S：流されない。</p> <p>T：筆者の言う「大衆消費の快楽に刹那的にのめり込む」という指摘に繋がるね。</p> <p>S：あくまで手段としてネットを使う。</p> <p>T：ネットの生の面と負の面をきちんと把握して使い分けることが大切だよね。筆者は著書で……。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●班ごとの発表の際は、簡潔にまとめて分かりやすく教室全体に伝えるよう促す。 ●一、二時間目で生徒から出て来た考えを活かす。 ●ここからは個別に指名して聞いていく。 ●生徒の意見を踏まえ、筆者が『ネットとリアルのあいだ』で記した「身体感覚なしに脳内でのシミュレーションによって感情を発生できることはヒトの特権である。だから、ITは逆に、身体性の回復のためにもちいられなくてはならないのだ。ITをうまく利用して、未開拓の身体感覚をさぐっていき、トータルな生存能力を高めていく (中略) 身体的共感の生まれるコミュニティの支援をすることなのである。」という部分を引用し、変化の激しいこの先の社会を生きていくうえで、生徒はITを手段として主体的に活用していく必要があることを指摘する。 ●現在、そしてこの先のネットとリアルと私たちを考えるうえで、本文という当時の背景を知っておくことの意義にも触れる。 ★新たな考えに触れ、自分の考えを深めることができている。 ★本文を読んで、現代の社会と今の自分について関連させて考えようとしている。 ★ネットとリアルと私たちについて、考えを深めようとしている。(ワークシート、行動観察) (ワークシート、発言、行動観察) ★相手に分かりやすいようにホワイトボードに簡潔にまとめたり、発表したりすることができている。(話すこと、書くこととの関連)
<p>ま 4. まとめ (5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●多様な意見に触れた上で、率直な感想や考え

と め 5	(1) 自分の考え、自分とは違う考え、それを踏まえて考えたことをまとめる (2) 授業の感想を記入する。	を言語化してまとめる。 ◎ワークシート ★新たな考えに触れ、自分の考えを深めることができている。
-------------	---	--

7. 参考資料

- ・平野啓一郎『私とは何か 「個人」から「分人」へ』株式会社講談社／2012年9月20日
- ・高橋昌一郎『哲学ディベートー〈倫理〉を〈論理〉する』日本放送出版協会／2007年11月
- ・西垣通『ネットとリアルのあいだ 生きるための情報学』ちくまプリマー新書／2009年12月
- ・西垣通『IT革命ーネット社会のゆくえー』岩波書店／2001年5月18日
- ・鷲田清一『じぶん・この不思議な存在』講談社現代新書／1996年7月20日
- ・梶谷真司『考えるとはどういうことか 0歳から100歳までの哲学入門』幻冬舎／2018年9月26日

【『ネットとリアルのあいだ』】

- ・身体感覚なしに脳内でのシミュレーションによって感情を発生できることはヒトの特権である。(p151)
- だから、ITは逆に、身体性の回復のためにもちいられなくてはならないのだ。(p152)
- ITをうまく利用して、未開拓の身体感覚をさぐっていき、トータルな生存能力を高めていくというのは、サイバネティックスの戦略である。これがタイプIIIコンピュータの第一の実践的目標になるはずだ。
- ・第二の実践的目標は、生命的なコミュニティの再構築である。(p152)
- ・だが、タイプIIIコンピュータの使命は、このような身体的共感の生まれるコミュニティの支援をすることなのである。(p153)